2023年度　神石高原学園　神石インターナショナルスクール　教育課程特例校評価（自己評価）

	評価区分	評価項目	実施内容・状況
日本語と英語によるイマージョン教育	実施体制	カリキュラムや全体運営、クラス運営を適切に進める体制がとれているか	・全寮制という枠組みを生かし、内容や時間数を検討取り組むことのできる包括的なカリキュラムを作成している。 ・英語での教科指導では学習指導要領の内容事項が担保されるようIPC(International Primary Curriculum)と学習指導要領の内容をそれぞれすり合わせ、IPC正式認定校としての要件も満たされるよう評価の仕方等を教職員で共有した。 ・週1回の学年ミーティングを設置し、日本人教員とインターナショナルの教員の打ち合わせの時間を拡充した。学年ミーティングでの議事録は管理職を通じて寮、特別支援体制、カウンセラーなど子どもたちと関わる多くの人たちと情報を共有している。 ・社会科では校外学習を増やし、理科では本校の自然環境を生かした指導に挑戦している。特に、近隣住民及び団体との活動を増やし、学校だけでなく地域への関わりを通じて学べるようになってきている。また、日本人スタッフとインターナショナル教員との連携を研修及びIPCのカリキュラム実施がより洗練されてきた。 ・1学級2担任制（インターナショナル教員と日本の教員）、寮でのカリキュラムを実施するハウスペアレント、学習支援員やサポートスタッフなど多くの教職員で指導カリキュラムの共通理解を図っている。実施する中で問題や課題となる点はすぐに検討し、年度途中であっても変更や訂正を加えて柔軟に対応できよう週に1度の全体ミーティングなどのコミュニケーションを重視している。
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか	・英語での生活科、理科社会の一部、総合的な学習等にあたる教科において日本の学習指導要領の目的及び内容に照らし合わせながらIPC（International Primary Curriculum）使用している。教務担当教員が学習指導要領に合う単元をIPCの単元から探し、その単元をインターナショナルの教員が自身で実施することで、大きな齟齬のない指導計画及び実施が可能となっている。学習指導要領にしかない目的や内容については日本語による週末プログラムの中に編成しなおす等して目的や内容、時数に不備のないようにしている。 ・2024年3月にはICA（International Curriculum Association）からIPC校正式認定校となるように学校環境等を整えていく。
		授業は円滑に運営できているか	・1学級2担任制（インターナショナル教員と日本人教員）で実施。また、専科教員を配置できるようになり、より指導が専門的になってきている。 ・日本語指導教科は検定教科書を、英語で指導または英語と日本語で指導する教科は検定教科書とその翻訳版、その他内容に応じた副教材を活用している。 ・海外の大学を卒業したばかりのインターナショナル人材をインターンとして雇用し、児童の英語力向上及び生活のサポートや英語を使う機会の提供を行っている。 ・算数は英語と日本語のバイリンガルで同時に教えることで、子どもたちは一度の授業で英語でも日本語でも算数の用語を獲得する機会を得た。また、算数の教員が必ず2名クラスに入るため、レベル別、言語別、サポートが手厚くなり、算数の学力も向上しつつある。
	児童への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か	・全寮生活であることから、入学及び編入前から保護者との連携を築き、カリキュラムへの理解を得ながら情報の共有を図った。 ・入学前の体験入学やサマーキャンプを実施し、児童自身が本校での生活を確認する機会を与えている。多様な背景を持った児童に対して教育の機会を提供している。 ・編入希望者に対しては学年相応の英語力も必要となるものの、本校での学習環境や見通しなどを説明し、本人が本校で生活し学ぶことを前向きに考え希望することを重視した。
		入学後の対応は適切か	・学校が4年目を迎え、初めての6年生の卒業式を行った。子どもたちの進学先も決まり、在校生は将来を見据えることができた。 ・英語での指示や指導を不安に感じている児童、学力的にサポートが必要な児童には、スタッフを授業中に配置し、適切にサポートを受けられる体制を整えた。 ・編入の児童にはESLのクラスまたは英語のサポートを授業につけさせ、英語の授業にできるだけ早く馴染めるようにした。
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報共有につとめているか	・ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ・学校説明会を適時実施し、本学が目指す姿を共有している。 ・保護者に向けての教育説明、実践報告に努めている。 ・国内外からの見学・視察へ対応している。
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか	・算数の用語や理科等の用語についての英単語を理解し、英語力の向上が見られる。 ・インターナショナル教員の英語で行う教科指導を理解し、英語での作文能力も向上している。
	その他	その他	・卒業以降の児童の進路を見据え、カリキュラムの見直し、策定、実施を積極的に行っている。 ・外国籍教員及び日本人教員の研修を実施し、より上質なカリキュラムの実施に努めている。